平成27年度人権教育指導者養成事業

人権教育研修会

●と　き：平成２７年６月１８日（木）
●ところ：柴田町立槻木中学校

開会の挨拶
柴田町教育委員会
教育長　船迫　邦則　様

本研修会は，柴田町教育委員会のご支援・ご協力のもと，柴田町立槻木中学校を会場に開催されました。柴田町立小中学校教員や福祉関係職員，人権擁護委員等80名を超える方々が参加され，講話を熱心に聞くとともに，人権について考えました。

チャイルドラインみやぎ代表理事の小林純子先生，県人権擁護委員・弁護士の土井浩之先生に，「子どものSOS」というテーマでお話をいただきました。小林先生には，今の宮城の子どもたちを取り巻く状況を，土井先生には，その実態をもとに「人権とは何か」を分かりやすくお話いただきました。

お二人のお話とも，これまでの長い経験に裏打ちされた本質的なものであり，「人権」を身近な目線で分かりやすく感じることができるものでした。現在の子どもを取り巻く状況を考えたとき，できるだけ多くの先生方や福祉関係の方々に聞いていただきたい内容でした。

【参加者からの感想】

○改めて子どもとの関わり方や見方などを考えさせられました。子どもの話を「聞く」ということは，「常に正しいことをもとめられている」という意識があり，自分の考えなどをうまく話すことができませんでしたが，「聞くことが大切」だということを知りました。これからは「聞き取り上手」になっていきたいと思います。【20代女　教員】

○人権についての見方や考え方が変わり，改めて人権というのはどういうものなのかということを知ることができました。「人権を尊重する」という言葉をよく耳にしますが，自分の周りにいる仲間から尊重され，存在が認められることであるということを知りました。普段子どもと接していく中で，子どもの話に耳を傾け，聞き，安心して楽しい学校生活を送ることができるような環境を作ることがどれだけ重要なことなのかということも知ることができました。【20代男　教員】

○中学生の子どもをもつ親の立場でこの研修会に参加させていただきました。「子育て７箇条」とても大切だと思いました。私も子どもには「ありがとう」や「ごめんなさい」が言える親でありたいと思います。【40代女　保護者】

○人権というと何か重いもののように感じていました。仕事の中で生徒と関わり話を聞くことで，元気になっていく姿を見ると，私も元気をもらい育てられているように思います。皆が幸せになれるよう，これからも話を聞き続けます。【50代女　福祉関係】

テーマ　子ども の SOS

「子どものSOSを　受け止める」
チャイルドラインみやぎ　代表理事
小林　純子　氏

☆講話の内容

- チャイルドラインにかかる電話件数（着信数）（2013年度）
  全国　205,091件，　宮城県　11,355件
- 宮城　かけた年齢
  小低学年8%，高学年19%%，中学20%，それ以上29%
- 宮城　電話の内容
  友達22.3%，性15.4%，身体7.3%，いじめ7.1%
- 子どもの現状
  人間関係に気をつかう，孤立への不安，情報過多
  ネット依存，自尊感情低い，不登校・引きこもり増加
- 子どもを救済するために
  ①子どもの様子をよく見る，②子どもの話を良く聞く
  ③自尊感情をゆっくり育てる，④人権意識を育てる
  ⑤NO（いや）GO（にげる）TELL（話す）を教える
  ⑥支援者を見つける・サポートしてもらう

「人権侵害とは何だろう　人権を守るとはどういうことだろう」
宮城県人権擁護委員　弁護士
土井　浩之　氏

☆講話の内容

- 人間の脳は，身体・生命の危機から身を守る本能がある。
  （「仲間からはずされる」という危険からも…）
- 自分が否定される→仲間からはずされる
  …人間にとって一番苦しい，自分を防衛しようとする反応が出る。
- 仲間であることを実感できる状況（人権が守られている状況）
  …自分が仲間として尊重されている状態
- 一度人権侵害が起こされると（いじめ，虐待等）
  …「また行われるのではないか」という思いが心に残る。
- 人権とは「自分の属する対人関係から尊重され，協調的に存在することが保障される人間固有かつ必須の権利」
- 「子ども一人一人の人権が守られている状況」を，どれだけ維持できるか。
  …仲間と一緒にいられることが楽しいと思える状況を
  …みんなが生きていて良かったと思える状況を